

令和7年度(2025年度)

熊本県人権関係登録講師一覧(講師別)

講師氏名(五十音順) (1)人権課題 (2)講演テーマ (3)略歴等 (4)メッセージ

1 泉 潤 (いずみ じゅん)

- (1)ハンセン病回復者及びその家族の人権
- (2)「ハンセン病回復者及びその家族の人権」
- (3)熊本日日新聞社論説委員長、
熊本県「無らい県運動」検証委員会(2011～2014年度)、
著書「検証ハンセン病史」

2 井上 佳子 (いのうえ けいこ)

- (1)ハンセン病回復者及びその家族の人権、人権全般
- (2)「メディアと人権」、「映像ジャーナリズムの可能性と危うさ」、
「『個』とジャーナリズム」、「ハンセン病回復者及びその家族の人権」
(三池炭鉱・水俣病・川辺川ダム・手話・戦争などのテーマを取材)
- (3)長崎県立大学シーボルト校国際社会学部教授、
元RKK熊本放送テレビプロデューサー・ディレクター、
著書「孤高の桜～ハンセン病を生きた人たち～」、「壁のない風景～ハンセン病を
生きる～」、「三池炭鉱・月の記憶」、「戦地巡歴～我が祖父の声を聴く」

3 今坂 洋志 (いまさか ひろし)

- (1)性的指向・性自認に関する人権、性与人権
- (2)「性的マイノリティと人権」、「性的マイノリティへの支援のために学校・職場・地域
で必要なこと」、「性的指向・性自認等、性の多様性を理解する」、
「性の相談で必要なこと」、「家庭・学校における性教育」、「性差別と人権」、
「性非行・性の問題行動への対応の在り方」
- (3)全国性教育研修団体連絡協議会常任理事、熊本県性教育研究会会長、
ともに拓くLGBTQ+の会くまもと代表
- (4)性の人権については、「人間の性」について正しく知ることから理解が始まります。

4 岩谷 美代子（いわたに みよこ）

- (1) こどもの人権、外国人の人権
- (2) 「親に連れられて来日した外国人の子どもたちの日本語教育・進路保障・仲間づくりについて」
- (3) NPO法人外国から来た子ども支援ネットくまもと日本語指導コーディネーター、熊本大学非常勤講師（教育学部人権教育論）
- (4) 親の仕事や結婚で来日する外国ルーツの子ども達が急増しています。日本語が分からないまま小中学校で過ごす子どもたちは大変です。日本語をどのように学んでいくのか、熊本県の日本語指導体制は整っているのか。言葉、文化、心の壁にぶつかっている子どもたちの生の声とともに、現状をお話します。

5 大里 耕守（おおさと やすもり）

- (1) 部落差別（同和問題）
- (2) 「部落差別解消推進法と人権」、「誰もが輝く人権のまちづくりをめざして」、「人権に関する本県の重要課題は？」
- (3) 前南関町教育長、元同和教育推進教員、元公立小・中学校長、元熊本県人権センター事業検討委員会委員、元南関町地域人権教育指導員
- (4) 国際化が進み、日本人の歴史と文化や戦争をのりこえた人道主義の進展により、国民性の理解や実践力への評価が高まってきました。更なる人権国高揚、課題克服への学びが大切な今日です。

6 小野 友道（おの ともみち）

- (1) ハンセン病回復者及びその家族の人権、感染症・難病等をめぐる人権
- (2) 「ハンセン病回復者及びその家族の人権」、
「新型コロナウイルス感染症と人権～ハンセン病から学び、未来に向けて私たちがめざすこと～」
- (3) 熊本大学顧問・名誉教授、熊本保健科学大学名誉教授、
寿量会熊本機能病院顧問
- (4) ハンセン病の歴史と現在を知って頂きたいのです。知らないで偏見をもつことが悲しいのです。

7 尾道 幸子（おのみち さちこ）

- (1) こどもの人権、障がい者の人権
- (2) 「子育て支援」、「発達障がい児・発達障がい者の特性と対応」、「障がい児・障がい者の地域生活支援」（住居・生活・金銭管理・余暇・仕事他）、「相談支援事業」（障がい児・障がい者の相談支援）
- (3) 熊本市西保健センター1才半・3才児健診心理相談・follow、熊本県中央児童相談所（心理判定・相談・療育等）元非常勤、くまもと江津湖療育医療センター元地域療育部長（療育・検査・相談支援）、心理相談員
- (4) 私がお話しできることは、今まで「相談や療育検査等で出会った方々との出会いの中での経験から考えたこと」なので、ご本人、ご家族、とりまく人たちとの関わりです。人は変わる、スタートラインは何回でも引き直せる、と考えています。

8 川本 愛一郎（かわもと あいいちろう）

- (1) 水俣病をめぐる人権
- (2) 水俣病患者とその家族の人権
水俣病患者家族としての体験
- (3) 1958生まれ
2004年 有限会社リハシップあい設立（介護事業、訪問看護、児童発達支援事業など）現在まで
2008年 水俣病資料館語り部 現在まで
- (4) 人権意識は高まってきていますが、まだ課題があります。水俣病事件で経験したことを共有していただければと思います。

9 熊野 たまみ（くまの たまみ）

- (1) 人権全般
- (2) 「人権ワークショップ」、「ダイバーシティ導入研修」、「女性活躍推進研修」、「アンコンシャス・バイアス研修」、「“SDGs de 地方創生”の研修」、「SDGs 2030 研修」、「アンガーマネジメント研修」、「研修のつくり方」、「社会教育と地域連携」、「木育ワークショップ」他
- (3) 株式会社adapt next. 代表

10 後藤 忠久（ごとう ただひさ）

- (1) 部落差別（同和問題）、人権全般
- (2) 「くらしと人権」、「人権のまちづくり」
- (3) 総務省行政相談委員、元熊本県立大学・崇城大学非常勤講師、元熊本県教育庁社会教育課教育審議員、元公立小学校長、

1 1 紫藤 千子（しとう ゆきこ）

- (1) 高齢者の人権、こどもの人権
- (2) 「高齢者の権利擁護」、「高齢者の虐待防止」「権利擁護 意思決定支援」
- (3) 社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員、精神保健福祉士

1 2 杉本 肇（すぎもと はじめ）

- (1) 水俣病をめぐる人権
- (2) 「水俣病患者家族に生まれて」
- (3) 水俣病資料館語り部

1 3 杉山 友香（すぎやま ゆか）

- (1) ハラスメント
- (2) 「職場におけるハラスメント防止研修」
- (3) 杉山友香社会保険労務士事務所
- (4) 各種ハラスメントに対する正しい理解をして、働きやすい職場作りを目指しましょう。

1 4 高橋 恵子（たかはし けいこ）

- (1) 高齢者の人権
- (2) 「高齢者の人権」、「地域で認知症の人を支えること」
- (3) グループホームせせらぎ代表、キャラバンメイト、認知症ケア専門士（上級）、認知症介護指導者、チームオレンジコーディネーター

1 5 竹下 元子（たけした もとこ）

- (1) 女性の人権、性的指向・性自認に関する人権、ハラスメント、DV被害、加害、性暴力
- (2) 「女性の人権」、「パワハラ、セクハラ、マタハラ」、「DV」、「親子」、「性暴力」、「DV加害者更生プログラム」、「LGBTQAX」
- (3) NPO法人ウィメンズ・カウンセリングルーム熊本代表、菊池市男女共同参画専門委員、母子自立支援施設カウンセラー、熊本県弁護士会セクシュアルハラスメント調査委員会委員、熊本大学他非常勤講師、配偶者からの暴力被害者支援アドバイザー（内閣府）

16 戸田 俊文（とだ としふみ）

- (1) こどもの人権、インターネットによる人権侵害
- (2) 「豊かな人権感覚を持ってネット社会に参画するために」、「人間尊重を基盤にしてネット社会を賢く豊かに生きる子どもたちの育成」
- (3) 真和中学・高等学校情報担当専任講師、元公立小学校長、
平成28年度情報教育功労者文部科学大臣表彰
- (4) こどもたちの健やかな成長のために、共に考えていければありがたいです。

17 中 修一（なか しゅういち）

- (1) ハンセン病回復者及びその家族の人権
- (2) 「ハンセン病回復者及びその家族の人権」
- (3) 菊池恵楓園退所者
- (4) 全ての人が安心して生きることのできる社会の構築を目指しましょう。

18 中川 有紀（なかがわ ありとし）

- (1) こどもの人権、部落差別（同和問題）
- (2) 「人権全般・人権教育」、「学校・家庭・地域社会での人権教育」
- (3) 益城町教育委員会地域学校協働活動推進員、
元熊本県教育庁社会教育課課長補佐、元公立小学校長、
元益城町教育委員会社会教育指導員、元学校支援アドバイザー
- (4) 人権課題を我が事として受けとめ、課題解決に向けて自分にできることを行動に移しましょう。

19 波口 恵美子（なみぐち えみこ）

- (1) 女性の人権、こどもの人権、犯罪被害者等の人権、ハラスメント
- (2) 「性暴力の理解と支援」、「ドメスティック・バイオレンス」、
「セクハラ、パワハラ等のハラスメント」、「アサーション・トレーニング」
- (3) トウルー・カラーズ・ジャパン認定ファシリテーター、人権擁護委員
- (4) 人と人の安全、安心な関係を作っていくために、学びの時間を共にできたらうれしいです。

20 野尻 千穂子（のじり ちほこ）

- (1) 女性の人権、こどもの人権、障がい者の人権
- (2) 「障がい者の人権と命の重さ」、「命の花を咲かせよう」、「苦労の数だけ愛の人になろう」
- (3) ヒューマンネットワーク熊本会員、元熊本県いのちの会代表
- (4) 命をもらって生きることは時として一人では生きていけないこともあります。私は12歳で胸から下のマヒの体になりました。悩んだ年月もありました。まず家族が「お前はお前のままで良いんだよ」それが生きる希望と努力する私へと変わりました。

21 秦 竜也（はた たつや）

- (1) 部落差別（同和問題）
- (2) 「部落差別（同和問題）の現状と課題」、「教育に期待すること」、「想いは必ず伝わる」
- (3) 部落解放同盟熊本県連合会書記長

22 藤井 誠（ふじい まこと）

- (1) 人権全般（企業と人権、人権ワークショップ）、ハラスメント
- (2) 「人権全般・人権教育」、「人権ワークショップ」、「企業と人権」
- (3) 第三期・第四期文部科学省中央教育審議会専門委員、一般社団法人障がい者起業・就労支援協会代表理事、教育プロデューサー、一般社団法人 HR Japan 代表理事

23 真嶋 浩（ましま ひろし）

- (1) 犯罪被害者等の人権
- (2) 「犯罪被害者への理解と支援の必要性」
- (3) 前公益社団法人くまもと被害者支援センター専務理事、元公益社団法人全国被害者支援ネットワーク理事、元熊本県警察学校長、元犯罪被害者支援室長

24 松川 由美（まつかわ ゆみ）

- (1) インターネットによる人権侵害
- (2) 「ネット社会に潜む人権問題」、「ネット社会における子どもたちの現状と保護者の役割」、「ネットトラブルに巻き込まれないために」
- (3) モバイル・ネットワーク研究所代表
- (4) インターネットにおける人権侵害は、様々な分野に及びます。研修を通じてトラブル事例を知っていただき、決して他人事ではないという意識とともに、被害者にも加害者にもならないよう、人権に関して正しい認識を持っていただきたいです。

25 水野 直樹（みずの なおき）

- (1) 災害と人権
- (2) 「安心をそなえる～人権視点と日常から～」
- (3) 防災教育をすすめるNPO法人ソナエトコ理事長、NPO法人くまもと災害ボランティア団体ネットワーク理事、NPO法人くまもと防災士会副代表
- (4) 1つひとつの「あたりまえ」で出来ている日常。「あたりまえ」が「幸せ」であることを確認し、「あたりまえ」が無くなった「まさか」の時を考えましょう。

26 宮田 鉄雄（みやた てつお）

- (1) 部落差別（同和問題）
- (2) 「部落差別（同和問題）の現状と課題」、「教育に期待すること」、「未来の子どもたちのために」
- (3) 全日本同和会九州連合会副会長、全日本同和会熊本県連合会会長

27 宮本 儀子（みやもと よしこ）

- (1) こどもの人権
- (2) 「子どもの人権」、「天使の命 繋がって」
- (3) 熊本エンジェルの会、「突然」子どもを亡くした家族の会代表
- (4) 大切な人を亡くし、日常を過ごせることがどんなにありがたいかを亡くなった人から学び、人との出逢いや繋がりをつくってくれた。そんな私の経験を伝えたい。

28 村上 奈美（むらかみ なみ）

- (1) インターネットによる人権侵害
- (2) 「保護者・教育者として知っておきたいデジタルネイティブ世代のコミュニケーション」「加害者・被害者にならずSNSを上手に使う」「想像力と判断力と知識でスマホ・ネットを安全に使う」
- (3) 有限会社マリオネット 代表取締役
- (4) 95年（当時中学生）のときから様々なインターネットの人権侵害、トラブル事例を見してきました。その経験を今の子どもたちや大人に伝えて皆が思いやりを持って技術を正しく使用するスキルの育成を目指しています。

29 八木 浩光（やぎ ひろみつ）

- (1) 外国人の人権
- (2) 「多文化共生のまちづくり（地域づくり）」「異文化理解、アンコンシャスバイアス」「グローバルコミュニケーション」「やさしい日本語」
- (3) 熊本市国際交流振興事業団で活動。2024年現在、同事業団で多文化共生、日本語教育、グローバルシチズンシップ分野の人材育成を担当。その他、熊本大学社会教育、グローバルリーダーユース、文化庁日本語教育スタートアッププログラムのアドバイザーを務める。
- (4) 人口減少・少子高齢化の進展やTSMCの進出など、外国人住民が急増する熊本県内の状況における、多文化共生のまちづくりを推進する意義と重要性について考えます。

30 柳原 志保（やなぎはら しほ）

- (1) 災害と人権
- (2) 「いつもともしもの安心術」「みんなに優しい防災」、「もしものに備えるいつも」など
- (3) 宮城県多賀城市出身。東日本大震災で被災後、移住先の熊本で熊本地震や令和2年7月豪雨を経験。「歌う防災士しほママ」のネーミングで、誰もが取り組めるわかりやすい講話は全国に拡がり、テレビなどメディア出演も多数。自身がシングルマザーのため、ひとり親家庭支援や地域の居場所づくりにも尽力している。
- (4) 子どもからシニアまで、年齢・立場などに合わせて内容を工夫し、歌や体操、ゲームなどを取り入れるなど、体験型でわかりやすく伝えることを心がけています。3度の大災害の体験談に加え、能登半島地震など近年の災害の課題、教訓から何ができるかを考えてみませんか？

31 山下 順子（やました じゅんこ）

- (1) こどもの人権、障がい者の人権
- (2) 「地域の中で、ともに生きる」、「出会いに感謝して」
- (3) 認定NPO法人とら太の会理事長

3 2 吉永 理巳子（よしなが りみこ）

- (1) 水俣病をめぐる人権
- (2) 水俣病患者とその家族の人権
水俣病患者家族としての体験
- (3) 一般社団法人水俣病を語り継ぐ会 代表理事
水俣市立水俣病資料館 語り部

3 3 吉松 裕藏（よしまつ ゆうぞう）

- (1) ホームレスの人権
- (2) 「ひとりじゃないよ～ホームレスの方々への支援を通して学んだこと～」
- (3) NPO法人熊本ホームレス自立支援の会元事務局長、
NPO法人でんでん虫の会代表、
社会福祉士、精神保健福祉士
- (4) 孤立・孤独の問題が深刻化する中、どのように人と人とのつながりを作っていけるか、共に考えましょう。